

佐野市の飼い主不在の野良猫問題における「どうぶつ基金さくらねこ」  
導入の必要性に関する陳情

1 陳情の要旨

近年の生活や交通の便利さの進化に相反し、身近な自然の減少、人口増加に伴い、小動物の生活範囲が脅かされていると感じています。その中でも、最も人間と関わりが深いであろうと思われる猫について今回陳情させていただきます。

私が佐野市に住んでから約15年の間、野良猫、野良猫の繁殖による子猫、遺棄されたであろう子猫を見ない時期はありませんでした。

行き場を失い彷徨う猫、怪我や病気、餓えに苦しむ猫を見るたびに心を痛め、個人ボランティアとして、出来る限りの保護、里親探し、野良猫の不妊・去勢手術を行ってまいりましたが、保護には限界があり、近隣の方のご理解を得て、野良猫を安全に捕獲し、不妊・去勢手術後、元の場所へ戻し、近隣の方に見守って頂き過剰な繁殖を未然に防ぐ「TNR (Trap. Neuter. Return)」活動を微力ながら10年以上継続してきました。

「TNR」とは、猫を安全に捕獲し、不妊手術を施し、耳先に不妊手術の印であるVカットを施し、元の場所に戻す方法のことで、近年では、飼い主不在の野良猫や無責任な飼い主による多頭飼育崩壊による過剰な繁殖により、人間と猫が共生していくためには最も有効な方法であり、当たり前の方法となりつつありますが、佐野市においては、多くの飼い主不在の、いわゆる野良猫、多頭飼育崩壊寸前の飼い主、既に多頭飼育が崩壊している飼い主が多数見受けられます。野良猫と呼ばれる猫は、元を辿れば、一度は人間に飼われていて遺棄されたり、不妊手術と室内飼育を怠り、外飼いをしている飼い主が繁殖させてしまった猫であります。

本来ならば飼い猫は室内飼いし、不妊手術をさせ、終生飼育が飼い主としての責務であるはずが、飼い主がそれらを怠った結果、飼育しきれずに遺棄、または過剰繁殖、そして野良猫問題に繋がります。

私は10年以上、個人で活動してまいりましたが、個人で出来ること、助けられる猫の数は、海の水をコップですくう位の僅かな数です。活動する中で様々な相談を受けますが、この様なケースがありました。佐野市に住むご老人からのご相談で、「近所の野良猫が子猫を生んでいて何とか助けてあげたい。役所に相談をしたところ、餌を与えず、水をかけてくださいと言われ

たが、そんな惨いことは出来ない。もし自分が餌をあげなくても近隣でもご飯をあげている住民もいて、毎日悩んでいる内に子猫も大きくなり、また増えてしまう。どうしたらよいのか悩みすぎて十二指腸潰瘍を患い辛い毎日です。」というものでした。その後、その野良猫達は「TNR」を行うことでご老人と近隣の方が見守っていくことで解決し、ご老人のご病気も改善されました。

このようなことは至る場所で起こっており、餌を与えない、水をかけるというその場しのぎの対策ではなく、抜本的な解決と、市民に芽生えた優しい心を育むためにも、「TNR」という方法を認識して頂くと同時に虐待、殺傷処分ゼロを目指し、即ち命の尊さを市民一人一人が心に刻む市となれるよう、行政のお力を拝借したく、下記のお願いをさせていただきます。

(1) 飼い主不在の猫（野良猫）への「TNR」実施における公益社団法人  
どうぶつ基金さくらねこ無料不妊手術への参加

法改正により行政が猫の引き取りを拒否できるようになり、野良猫問題の抜本的解決には「TNR」が最も有効であることを再認識し、立ち上がったのが、どうぶつ基金さくらねこです。その公益社団法人どうぶつ基金さくらねこ無料不妊手術では個人、団体、行政への枠を決め、毎月無料チケットを配布しています。（手術は、賛同病院・医院協力による。）

(2) 飼い主不在の猫、飼い主がいても適切な飼育を怠っている（多頭飼育崩壊等）猫への「TNR」の実施

佐野市が「TNR」を率先して呼びかけることにより、住民の意識の変化、認識も強まるでしょう。

※あくまで「TNR」であり、いわゆる地域猫対策とは違います。

## 2 陳情事項

(1) 野良猫を助きたい、増えないようにしたいと多くの方が考えながらも、金銭的問題から多くの方が不妊手術に二の足を踏まれているのも現状です。野良猫問題に市を挙げて取り組み、補助金制度、助成について確立してくだされば猫の不妊手術がもっと身近なものになり、金銭面で叶わなかった野良猫の不妊手術を行うことができる人が増えます。

これは、現状問題だけではなく、数年、数10年後には、野良猫被害に悩まされることが少なくなることに繋がります。実例として、最も身近な足利市はどうぶつ基金さくらねこ無料手術の行政の導入、取り組みをされており、多くの猫、住民の方が救われております。また、栃木県では、小山市、日光市、鹿沼市など19の市町村が飼い犬、猫に助成金

を導入しています。

未だ、それらの関心が薄いと感じられる我が佐野市でも、野良猫問題におけるどうぶつ基金さくらねこチケット導入をご検討頂きたくお願い申し上げます。

- (2) 公益社団法人どうぶつ基金の実績は、2017年度の無料不妊手術は22,555頭になります。

システムは、毎月、個人、団体、行政枠内での抽選により、提携病院、医院において無料不妊手術チケットが配布されます。

現在、個人での一般枠にて応募させていただいておりますが、配布される枚数は僅か2枚であり、希望通りの枚数確保は困難であり、個人での無力さを痛感いたしております。

行政枠には枚数の上限はなく、支援内容（手術以外にワクチン、のみ取り）が充実していることから、是非、佐野市としてチケットを確保、動物病院との提携をご検討頂きたくお願い申し上げます。

以上、「TNR」認知とどうぶつ基金さくらねこチケットについてお願いさせていただきましたが、書き足りないのも現状です。よく、「地域猫活動」（飼い主不在の猫を地域住民の認知と合意の上で猫を共同管理する）と混同されることもあります。今回の陳情は、「TNR」についてです。これ以上、不幸な猫を増やさないために、人と猫が同じ地球上に生まれ、同じ命を授かり、共に生きていくための最善の方法が「TNR」です。

私は自分の住む佐野市が好きですが、野良猫とそれ以外の動物に対する意識は低く、とても残念な気持ちです。これから更に素晴らしい市となるよう、今こそ行動を起こしていくべき時だと思っております。どうか、この思いが届きますことを祈っております。